

福田寺だより

本堂上棟式挙行

—— 本尊薬師如来の靈驗加護の下に ——

去る三月十四日、本堂上棟式が挙行されました。前日から空模様があやしく心配しましたが、式の間だけ雨がピタリと止むという不思議にも本尊薬師如来の御加護を頂き、荘厳のうちには式を執行することが出来ました。御案内は建設委員の方々でしたが、前号の寺だよりを見て、一般の方々も相当参加していただき、にぎやかに行うことが出来ました。特に棟木を上げる式では、紅白の綱を全員で曳き上げ、又最後の餅撒き

発行

神奈川 小田原市 飯田岡二五七

飯田山 福田 田 土寸 36-27

住職 橋本 尚信 伍

55

では縁起ものとして、先をあらそって拾ってくれました。参加された方々には、とても良い思い出になることとおもいます。尚、当日の一部始終はビデオで録画してありますのでいづれ皆様にもご覧いただく機会があるかと存じます。
真新しい棟に聳える三本の御幣串は、五色の幡をひるがえし、三浦・服部棟梁以下、職方衆の意気を大空に示さんとばかりに、鮮やかに輝いておりました。

行事予定

◇ 施餓鬼会 ◇

七月四日(土) 午後二時半より

お施餓鬼料 二千元 (塔婆一本につき)

亡くなられた方が無い方、墓地だけの方、水子供養をしたい方、無縁者の供養をしたい方等々も是非お参り下さい。

詳細は同封の「お知らせ」をご覧ください。

◇ お盆 ◇

八月十三日～十六日 (一部七月)

ご先祖に供養し手を合わせる事は自らがご先祖の冥護をいただく事であり、生きている周囲の人々を拜む心に通じるものであります。家族一同、親族一同が、なかよく揃ってご先祖さまをお迎えして下さい。

集

本堂新築工事進行

特

——屋根銅板工事始まる——

銅板の

小野工業所

五月の連休あけより屋根の銅板工事が始まりました。施工は全国的に

寺社の銅板工事を請け負っている小野工業所ですが、現場は内藤貞吉親方が担当してくれております。この方も又現代に残る数少ない銅板職人で、一人でコツコツと着実に手際よく仕事をされる方です。毎日戸塚から通っておりますが、七時半には必ず仕事を始めています。

服部棟梁が、「瓦と違って銅板の屋根は、下地作業で随分と神経をつかうんですよ」と云いながら仕上げ

た、野地の仕上がりも素晴らしく、又その下地をくずさないようにと銅をはって行く内藤さんとの息の合った仕事で、屋根が立派に出来上がりつつあります。

銅板寄進 五六〇枚

これに先立って、銅板寄進者の祈願文と寄進者名を住職が銅板に筆で一枚一枚書き入れ祈願致しました。

寄進枚数は全部で五六〇枚、金額にして一一二万円となりました。

(一人で百枚の大口寄進もあり) 協力有り難うございました。



大和講御詠歌十八△成益△△

飯田岡支部 — 彼岸和讃奉詠 —

神奈川県大和講主催による第五十三回讃仏歌奉詠舞大会が、去る五月十四日小田原市民会館大ホールで行われました。

これは、一年に一度講員が日頃の練習の成果を発表する場であり、大和講としても重大イベントの一つであります。本年は二十一支部から六十の演目が披露され、福田寺に支部を置く飯田岡支部からも十四名が参加し、彼岸和讃を奉詠致しました。練習の甲斐があり、とても良い評価を得ました。

又、本年は飯田岡支部の第一期生の七名が、講員になって十年という輝かしい年功章を授与されました。

ここで少し大和講についてふれてみたいとおもいます。神奈川県大和講は、昭和四年に全国的にも希な御詠歌の団体として発足、県西部の真言宗寺院（当初は他宗派の僧侶も参加）を中心に発展、その後の各流儀の基となる。講員は宗派の別なく誰でも入講でき、技量よりも和を重んじ、ただひたすら神仏へ詠歌を捧げることが旨としています。

飯田岡支部は現在講員数十七名、支部としての日は浅いが、全員大和講の基本姿勢である「和」を大切に楽しく練習に励んでいます。

現在入講希望者も何人かおられますので、やってみたい方は是非ご相談下さい。

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

— 西国札所巡りと高野山 —

* 西国札所巡りと高野山 *

* すでに二度にわたってパ *

* ソフレットを配布しました *

* 通り、本年も団参を企画致 *

* しました。今回は「西国札 *

* 所巡りと高野山」として参 *

* 詣を主目的とするもので、 *

* 寺院の主催ならではの特色 *

* を持たせました。既に数名 *

* の申し込みがあります、 *

* まだ定員には充分空きがあ *

* りますので希望者は早めに *

* 申し込み下さい。今回の高 *

* 野山宿坊は、私（住職）が *

* 高野時代修行した寺で、先 *

* 代真栄和尚とも縁の深い金 *

* 剛三昧院です。 *

* △△△△△△△△△△

いね盆を迎えて

↓↓ 精霊棚の祀り方 ↑↑

お盆の準備をしたいたんだが祀り方が分からない、又、今までの祀り方で良いのだろうか、疑問をお持ちの家庭は多いかと思えます。

昔から伝えられた方法が、各家庭にあればそれで良いのですが、核家族の進む今日、初めて精霊棚を祀る方々等のため、今回はその祀り方について一例を示したいと思います。

まず、仏壇のお位牌などを外に出しそれぞれよく掃除します。仏壇の前、あるいは床の間等、適当な場所に小卓を設え、真菰(まこも)の筵(むしろ)を敷き、お位牌、花瓶、香炉、灯明などを、その上に移します。それから、茄子馬(なすびうま) 胡瓜牛(きゅうりうし) などを作って置きます。

更に、ミソハギ(水かけ草)、水の子(百味の飯食、茄子、胡瓜を細かく切って洗米を混ぜたもの)、關加水(供養の水、どんぶりに入れる)を用意する場合もあります。

あとは、季節の供物を供えます。

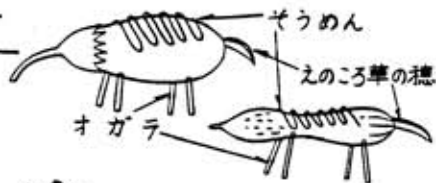
お盆は、昔から伝わる私たち先祖の精霊(みたま)まつりです。色々な飾りやお供物を心を込めて用意し手を合わせる事により、先祖へのつながりを新たにし、深くするためのもでもあります。

やり方は、地方により又家庭により一定していませんが、それで良いと思えます。

日本人独特の奥ゆかしい行事として、また心に安らぎとゆとりを与えてくれる行事として、大切に受け継いで行きたいものです。



茄子馬
胡瓜牛



略式棚